

エントリーNo8

- 学習会名称 (模擬団交学習会)
- 主催者 (大阪労連青年部)
- 対象者 (大阪労連加盟組織の青年組合員)

○なぜその学習会を企画したか

大阪労連青年部の大会などで、「自分の所属する労働組合の団体交渉に出たことがない」や「要求討議の内容を知らない、出たことがない」という意見があったため、模擬ではあっても労働組合の根幹となる部分を知ろうと企画。

○企画するにあたって、運営で工夫した点は？

出来るだけ団交未経験の青年組合員に来てもらい、「団体交渉って面白いんや」「自分の意見を、法律に基づいて言われへんって悔しいんや」という思いを持って帰ってもらいたかった。

親組織の役員も数名来ていただいたので、労働組合側の青年たちのアドバイザーになってもらった。(温かい目で基本放置をしてくれた。そのうえで、必要なところはそっとアドバイスしてくれた。これが有難かった！)

○苦労した点は？

初めてのことであるので、対象者をどうするか、ストーリー仕立てにするのか、全てアドリブで行うのか、団交の資料などは用意するのかというところから全く分からず、青年部で団体交渉に出たことのある組合員に実際の団交申し入れ書や要求書を持ち寄ってもらい、模擬団交のネタ作り。労働法に詳しい青年組合員と打ち合わせを行って、おかしい所やつじつまが合わないところ、解釈しにくい部分などをチェックしてもらった。(それでもまだ穴があった…)。

単産・職種によって要求は様々なので、統一した模擬団交の開催は非常に難しい。よっていわゆる「青年労働者」の要求(EX:低賃金、長時間労働、不安定雇用など)に題目をしぼることになる。

また、実際に模擬団交を行った結果、経営者側を労連本体の事務局長や労基法に詳しい青年組合員にやってもらったため、経営者としては大成功したが、なんせ賢すぎて、労働組合側の青年組合員たちでは勝てない。本当に勝てない。途中から「どうやって収集つけよう」と思うくらいに勝てない。

最終的に、「こういう所がポイントなので、こう考えて、こう返そう」というミニ学習会を最後にやって、青年の学習にできた。めっちゃ勉強になった。

○参加者からの感想は？

勉強になった、またやってほしいという意見がほとんど。
時間をもっと使いたかったという意見も多かった。

○総括を踏まえて、次に活かそうと思う点など

非常に面白い企画だったので、次はもっと広げたい。
また、労働者側に労働基準法や労働契約法を使って模擬団交に望めるよう、ミニ学習会なども行いたい。何か取っていけるように！
青年だけで行うのも楽しいが、親組織の役員と一緒に来てもらうというのも、青年と親組織をつなぐうえでは重要だと思った。
難しいことばかりの学習会では青年が疲れてしまうので、そのあとの交流企画もしっかりと！

○その他、学習会を行って気づいたこと

団体交渉は勝ち負けというだけではない。もちろん成功体験は大事なことで、何かを勝ち取ることは必要だけど、仲間がいて、自分と同じ思いで、経営者に向かっている自分の後ろから、叱咤激励も含めて支えてくれているという思いを青年が持つことは本当に大事なことであった。そのためにも、要求討議の場はしっかりと持ちたいし、自分の意見を各自が言い合う場の保障が必要だと思う。